

16. 手術を受ける乳がん患者への看護ケア共有に向けた取り組み ～チェック表を使用して～

野村 聡美, 高橋 悦子

(深谷赤十字病院 看護部)

【はじめに】 クリニカルパス使用による入院期間の短縮化によって、看護師は乳がん患者への必要なケアを十分行うことができていない現状がある。そこで、看護師が意識して必要なケアを行え、看護ケア共有に向けた取り組みとしてチェック表を作成した。【目的】 当施設外科病棟看護師を対象にチェック表に対する意識調査を行い、現状を明らかにする。【方法】 当施設外科病棟看護師 22 名に質問紙調査を実施した。【結果】 回収 19 名 (86.4%)。「チェック表があつて良かった」は 17 名 (89.4%)。「ケアに変化したことがある」は 14 名 (73.7%) であり、17 名 (89.5%) が「意識的に精神面への援助を行うようになったと思う」と回答した。【考察】 チェック表を使用することで看護師が精神面への援助の必要性に気づき、意識的に関わることにつながった。看護師の意識づけに有効な手段であったと考える。今後の課題として、ケアの統一と情報の共有に向けたチェック表の検討が挙げられる。

17. 乳癌患者に対する術後指導 ～夫を含めた在宅への支援～

林 多鶴子, 七五三木聡一, 和気美佐子

(沼田病院 外科病棟)

乳癌患者に対し夫も含めた術後指導を行い、在宅への支援に取り組んだので報告する。【対象】 平成 22 年 2 月に当院に入院の上肢窩郭清を伴う乳房切除術を受けた乳癌患者 2 名 (68 歳および 74 歳女性)。【方法】 ①患者と夫に対するベッドサイドでのリンパマッサージ指導 ②患者・夫・看護師・病棟師長が参加する面談の設定 ③理学療法士と連携したりハビリテーションカンファレンスの開催 ④複数の乳癌患者を交えた懇談会の開催 ⑤夫への希望を踏まえた退院時指導の実施 【結果】 リンパ浮腫発生予防について夫婦で取り組むことにより、夫が妻の術後の体調変化を理解し、スキンシップも図れた。夫婦で不安を表出することにより、問題解決の糸口を夫婦で見出すことができ、問題克服に有用であった。さらに同じ体験をしている患者同士が交流する場を提供することで、夫の間では出なかった同性同士の感情表出が可能となり、退院後の生活についての問題点を再確認できた。以上より、夫を交えた乳癌患者に対する術後指導は有用と考える。

〈セッション 6〉

再発など

座長：有澤 文夫

18. 当院におけるリンパ浮腫外来の運営 ～乳腺チームとの協働～

安木 薫, 大塚 麻由, 野澤 亜矢

石田 早紀, おぎ 美香, 奥出絵里香

滝川 雅子, 秋山 朱美

(さいたま赤十字病院 2-3 病棟)

齊藤 毅, 有澤 文夫, 王 宏生

(同 乳腺外科)

2008 年 4 月「リンパ浮腫指導管理料」が診療報酬の対象となり、乳癌術後のリンパ浮腫治療が疾病として認められた。同年 9 月に当院ではリンパ浮腫外来を開設し、リンパドレナージセラピストの資格を所持した看護師 2 名がリンパ浮腫を発生した乳癌患者の診察にあたることとし、予防が目的である「リンパ浮腫指導」は病棟看護師で編成した乳腺チームが説明会を開催し行うこととした。リンパ浮腫外来を運営するために、予防に関する指導と治療の整合性を保つ必要性が生じ、リンパ浮腫セラピストと病棟看護師乳腺チームとの間で連携を図った。今回はリンパ浮腫外来を開設してから 2 年間の業績、今後の課題について報告したい。

19. 術後長期間経過した後に乳房内に再発した 1 例

樋口 徹, 武井 寛幸, 吉田 崇

林 祐二, 内田沙弥香

(埼玉県立がんセンター 乳腺外科)

井上 賢一, 永井 成勲, 田部井敏夫

(同 乳腺腫瘍内科)

黒住 昌史

(同 病理診断科)

今回、18 年という長期間の後に乳房内に再発した 1 例を経験したので報告する。症例は 60 歳代女性で、18 年前に右乳癌 (C 領域), T1bN0M0, Stage I に対し乳房温存術+腋窩リンパ節郭清を施行された。病理診断は、乳頭腺管癌, f, ly (-), v (-), 断端陰性, n0 で ER 陽性, PR 陽性であった。術後補助療法として、タモキシフェンを 1 年間投与し、46Gy の乳房照射を行った。以後年 1 回の経過観察をしていたが、術後 18 年目に右乳房腫瘍を自覚し、来院した。穿刺吸引細胞診では判定不能であったため、針生検を施行したところ、充実腺管癌, ER 陽性, PR 陽性, HER2 陰性であった。遠隔臓器転移は認められなかった。乳房内再発と診断し、乳腺部分切除術を施行した。病理診断は、充実腺管癌, f, ly (1+), v (-), HG3, 断端陰性であった。前回の手術時の断端は陰性で、今回の腫